



豊かな海の実現に向けた取り組みについてポスター発表しました  
瀬戸内海研究フォーラム in 香川にて

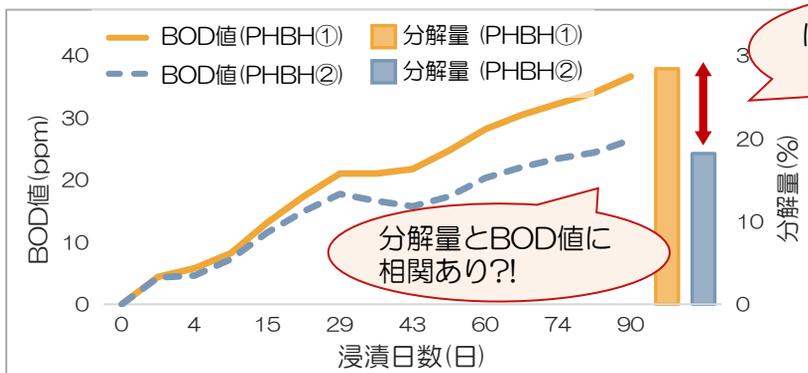


## 海水中で、生分解性プラスチックは どのように分解されるのか？

「生分解性プラスチックの海水中における分解性について」

生分解性プラスチックは、微生物の働きによって分解され、最終的には水と二酸化炭素となるプラスチックです。

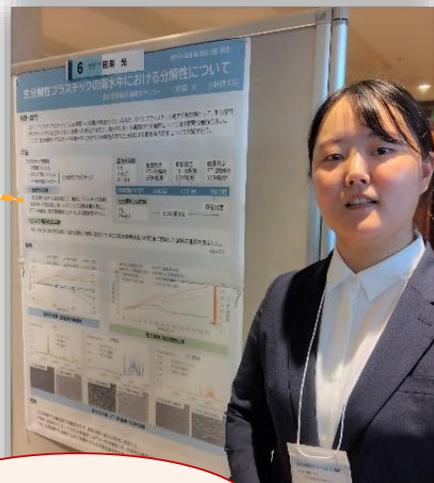
本検討では、PHBH（生分解性プラスチック）を海水に浸漬させ、分解量と微生物活性の指標であるBOD値を測定することで、分解挙動の評価を試みました。



ばらつきの要因は？  
⇒ 今後の検討課題

分解量とBOD値に  
相関あり?!

生分解性プラスチックは、自然界ですぐに分解されるわけではありません。環境負荷を減らすためには適切な使用と廃棄が不可欠です。



## 安全で低コストな廃水処理方法を 開発しました！

「オリーブ新漬け着色廃水の脱色方法の開発」

脱色後 脱色前



当センターHP



脱色方法の  
パンフレット



瀬戸内海研究フォーラム in 香川 2025年9月8日～9日

サンポートホール高松で開催された本フォーラムは、「豊かな海の実現戦略」をテーマに、基調講演とポスター発表を中心に実施されました。環境保全・水産業振興・観光振興の3分野を同時に推進する重要性を確認し、これらを一体的に進める方策の検討を目的として行われました。行政、研究者、NPO法人関係者、学生など、多様な立場の参加者が瀬戸内海の現状や課題、今後の展望等について意見交換を行い、2日間でのべ315名が参加する交流の場となりました。



2025年3月18日～19日 (Web開催)

「100年先につなぐ瀬戸の香り、多彩な恵み」をテーマに、香川県がホスト自治体となり、気候変動への適応策に関わる市民団体、企業及び地方公共団体等との情報交換を目的に開催されました。本県からは、農業試験場、水産試験場、環境保健研究センターが調査研究や技術開発について発表しました。併せて、地元企業や漁業協同組合、県試験研究機関の取り組みを紹介する動画が公開されました。また、パネルディスカッションでは、「気候変動適応に具体的に取り組むためのヒント」を提供することを目的に「気候変動適応としての食文化発案会」が開催されました。

## 香川の適応弁当！ 気候変動に負けない食文化とは？！



香川の郷土料理を紹介するとともに、県内で活動する観光、飲食事業者の皆様をまじえ、「地域の適応策を自由な発想で考える」をコンセプトに、気候変動による農水産の生産現場での変化をふまえた「香川の適応弁当」をその場で発案しました。大会視聴者とともに「気候変動に取り組むためのアイデア」づくりをしました。



気候変動などにより漁獲量の増えたハモを使って、すし飯を巻いた**ハモバッテラ**。巻き寿司風に盛り合わせます。



海水温の上昇により活動が活発になったチヌによる海苔の食害を防止するため、**チヌだんごのから揚げ**を発案！  
チヌのすり身をだんごにし、衣には細かく砕いた小豆島特産のそうめんをまぶしてから揚げにしました。郷土料理**まんばのけんちゃん**と**オリーブの新漬**を添えて召しあがれ。

## こんな取り組みをしています

当センターで実証実験！  
軽量・安価な緑化による高温対策の研究



サーモカメラで温度抑制効果を確認

視聴できます



## 香川県の気候変動への適応

地元企業、漁業協同組合、研究機関の取り組みをまとめた動画を公開



環境省  
気候変動適応全国大会



香川県気候変動  
適応センター

# 「夏休み親子わくわく体験2025」を開催しました！



実験をまじえた科学体験親子イベントを当センターで開催しました。応募により当選した小学4年生から6年生の計26名が5つのコースに分かれて楽しみながら科学にふれました。

2025年7月31日開催

## 匂いについて学ぼう！

色々な種類のおい成分を嗅いで、においの濃さを測ったり、種類あてゲームをしました。感じたことを正確に言葉で伝えることの重要性や、においの濃さで感じ方が変化すること、生活の中で利用されていること、においが生きていくうえでとても重要な役割を果たしていることを学びました。

## つかめる水を作ってみよう！



身近にある2種類の食品添加物を使ってつかめる水を作る実験をしました。つかめる水とは何なのか、どうやって作るのか、なぜ水が固まるのか、その仕組みについても学びました。

## 身近な水を調べよう！



ペットボトルを使って「透視度計」と「ろ過装置」作りに挑戦！水槽の水や、米のとぎ汁の透視度を「透視度計」で測り、手作りの「ろ過装置」で水をきれいにした後、どのくらいきれいになったのか「CODパックテスト」を使って比べる実験をしました。

## マイクロプラスチックについて知ろう！

私たちの暮らしに欠かせないプラスチック。しかし、捨てられることで、川や海に流出し紫外線や波の力などによってマイクロプラスチックとなり、環境にさまざまな影響を及ぼしています。マイクロプラスチックの性状や環境への影響について、体験を交えながら知ってもらうことにより、プラスチックごみの削減やマイクロプラスチックにならないために私たちが出来ることについて考えました。

## 身近な菌をみてみよう！ —これは何の菌？—

私たちの周りにはたくさんの種類の菌が存在しています。食品ではキムチやヨーグルト、味噌などの中で働く菌がいます。体の中にも良い菌、悪い菌さまざま…。そして、実際に菌はどんな風に見えるのか、自分たちで染色して顕微鏡で観察しました。



# 令和7年度 地方衛生研究所全国協議会会長表彰！

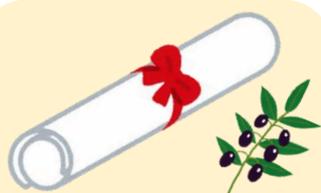
薬剤耐性菌を中心とした調査研究や、遺伝子解析手法の発展に寄与した功績が評価されました。

## 主な功績

- 薬剤耐性遺伝子blaGES-5を保有するセラチア菌の調査
- アシネトバクター属菌の薬剤耐性遺伝子等を解析
- 四国内の地方衛生研究所における「4県連携ネットワーク」構築に貢献



# 令和6年度 職員褒賞（知事褒賞）を受賞！



岡井 隆  
坂谷美月

オリーブ新漬け着色廃水の新たな処理（脱色・中和）方法の開発の功績が評価されました。

安全性や作業性に課題のあった従来の方法とは全く異なる発想で、脱色と中和処理を一度に行える安全で簡便かつ安価な処理方法を開発し、特許出願を行いました。この方法の普及により、生活環境の保全とオリーブの振興につながるものと期待されます。



# 日本ヒートアイランド学会でベストポスター賞を受賞！

## 「香川県における暑さへの適応研究」

気候変動とヒートアイランド現象により悪化する都市の暑熱環境から身を守るための研究を紹介しました。

## 主な内容

- 窓用断熱調光シートの工夫で所熱循環の改善をめざす
- 壁面、ベランダ、屋上等での簡易的な栽培装置で緑化方法を改良
- 局所空間での光化学オキシダント濃度低減技術の開発
- 熱中症予防のための児童用帽子の開発



本田雄一

# ワークショップとステージイベントを実施

しってる？「かんぽけん」～はかせとめぐる 香川県環境保健研究センター～

サンメッセ香川で開催された環境学習会に参加し、環境保健研究センターの仕事についてなど、クイズを交えながら、参加した子供たちと楽しく交流しました。また、マイクロプラスチックを使ったキーホルダーづくりのワークショップ、海ごみアクアリウムの展示や出展などを行いました。



## 環境保健研究センターの マスコットキャラクターが決まりました!!



環境保健研究センターの通称「環保研」にちなんで「環保犬（かんぽけん）」。ネコではありません。イヌですヨ。これからいろいろな場面で活躍してくれることと思います！お楽しみに。

KAGAWA環保研だより Vol. 42  
編集・発行 令和8年1月  
香川県環境保健研究センター  
〒760-0065  
香川県高松市朝日町  
五丁目3-105  
TEL (087) 825-0400  
FAX (087) 825-0408  
E-mail kanpokken@pref.kagawa.lg.jp

